

平成 15 年 1 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社 精工 技 研  
 代 表 者 名 代表取締役社長 上野昌利  
 ( 登 録 銘 柄 コード番号 6834 )  
 問 い 合 わ せ 先 経 営 企 画 室 齋藤祐司  
 TEL 047 - 388 - 6401

平成 15 年 3 月期 第 3 四半期の事業の進捗状況のお知らせ

当社の平成 15 年 3 月期 第 3 四半期 (平成 14 年 10 月 1 日から平成 14 年 12 月 31 日まで) における事業の進捗状況について、お知らせいたします。

1. 企業グループの平成 15 年 3 月期 第 3 四半期の業績の概況 (連結)

( 1 ) 第 3 四半期の業績 (平成 14 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日)

	当期 第 3 四 半 期		前期 第 3 四 半 期		前年同期比
	金 額	売上比	金 額	売上比	
	百万円	%	百万円	%	%
売 上 高	805	100.0	887	100.0	90.7
営 業 利 益	122		88		
経 常 利 益	171		68		
当期純利益	8		83		

( 2 ) 3 四半期通算の業績 (平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日)

	当期 3 四 半 期 通 算		前期 3 四 半 期 通 算		前年同期比
	金 額	売上比	金 額	売上比	
	百万円	%	百万円	%	%
売 上 高	3,253	100.0	3,217	100.0	101.1
営 業 利 益	354	10.9	268	8.3	132.1
経 常 利 益	280	8.6	315	9.8	88.9
当期純利益	292	9.0	189	5.9	153.9

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 2. 平成 15 年 3 月期 第 3 四半期の業績の概況 (個別)

### (1) 第 3 四半期の業績 (平成 14 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日)

	当期 第 3 四 半 期		前期 第 3 四 半 期		前年同期比
	金 額	売上比	金 額	売上比	
	百万円	%	百万円	%	%
売 上 高	678	100.0	904	100.0	75.0
営 業 利 益	64		82		
経 常 利 益	110		67		
当期純利益	50	7.5	78		

### (2) 3 四半期通算の業績 (平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日)

	当期 3 四 半 期 通 算		前期 3 四 半 期 通 算		前年同期比
	金 額	売上比	金 額	売上比	
	百万円	%	百万円	%	%
売 上 高	3,173	100.0	3,311	100.0	95.8
営 業 利 益	446	14.1	354	10.7	126.2
経 常 利 益	372	11.7	394	11.9	94.3
当期純利益	381	12.0	252	7.6	150.9

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 3. 平成 15 年 3 月期 第 3 四半期の事業の概況

### (1) 事業の概況

当四半期のわが国の景気動向は、企業収益の改善や設備投資の下げ止まり等、一部に持ち直しの動きが見られるものの、個人消費は総じて低調であり、失業率も最高水準となるなど、本格的な回復の兆しは見られず、おおむね横ばいの状態で推移しました。

一昨年来、国内製造業を中心に大幅な減益となっていた企業収益は、リストラ努力による固定費の削減等が寄与して増益に転じており、緩やかながら改善が見られます。在庫調整がほぼ終了したことや生産の持ち直し等を背景に、企業の機械設備投資も下げ止まりを見せ始めています。

しかし一方で、我が国の IT 関連産業に大きな影響を与えるアメリカ経済は、個人消費の伸びも鈍化傾向にある中でイラクに対する攻撃等の懸念材料を抱え、先行きに対する不透明感が強まっております。これに呼応して電気機器を中心に我が国の輸出は弱含んでおり、株価の低迷等と相まって、景気の下押し懸念を拭い去ることは、未だにできない状況にあります。

このような状況下で、当社グループの当四半期の業績(連結)は、売上高 805 百万円(前年同期比 90.7%)、営業利益 122 百万円(前年同期比 34 百万円減)、経常利益 171 百万円(前年同期比 103 百万円減)、当期純利益 8 百万円(前年同期比 74 百万円増)となりました。

(2) 部門別の概況

当四半期の各事業部門別の概況は以下のとおりであります。

精機部門

当四半期の精機部門は、上半期に売上の主軸となったDVD-ROM成形用金型の需要が一段落することとなりました。一方で、DVDレコーダーの普及を背景に、記録用ディスクであるDVD-Rを成形するための金型に対する需要が少しずつ顕在化し始めています。海外拠点における金型メンテナンス営業も徐々に軌道に乗りつつあり、当四半期の精機部門における連結売上高は576百万円(前年同期比104.4%)、連結営業利益は58百万円(前年同期比57.6%)となりました。

光製品部門

設備投資の過剰から世界的に需要の低迷が続いておりました光通信業界は、中国を中心としたアジア市場の活性や在庫調整の一服感から、一部には回復の兆しが見られます。我が国においてもメトロ系を中心に国内光通信網の整備に拍車がかかっており、FTTHの実現に向けた動きが活発化しつつあります。しかし一方で、インターネットを介して世界を流通する情報量の伸びには、業界の本格的な回復を下支えするほどの勢いは未だにありません。

このような環境の中、当四半期の光製品部門の連結売上高は239百万円(前年同期比63.1%)、連結営業利益は181百万円(前年同期比8百万円増)となりました。

第3四半期 部門別連結業績(平成14年10月1日~平成14年12月31日) (単位:百万円)

		当期第3四半期		前期第3四半期		前年同期比
		金額	構成比	金額	構成比	
精機部門	外部売上高	565	69.3%	507	54.5%	111.4%
	仕入間売上高	11	1.4	44	4.8	25.1
	売上高	576	70.6	552	59.3	104.4
	営業利益	58		101		57.6
光製品部門	光部品	130	15.9	219	23.5	59.3
	光部品製造機器	109	13.4	160	17.2	68.2
	売上高	239	29.4	379	40.7	63.1
	営業利益	181		189		

3四半期通算 部門別連結業績(平成14年4月1日~平成14年12月31日) (単位:百万円)

		当期3四半期通算		前期3四半期通算		前年同期比
		金額	構成比	金額	構成比	
精機部門	外部売上高	2,558	76.6%	1,303	37.6%	196.3%
	仕入間売上高	84	2.5	245	7.1	34.2
	売上高	2,642	79.2	1,548	44.7	170.6
	営業利益	830		353		234.8
光製品部門	光部品	382	11.5	1,333	38.5	28.7
	光部品製造機器	312	9.4	580	16.8	53.9
	売上高	695	20.8	1,913	55.3	36.3
	営業利益	476		85		

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 上記数値はセグメント情報を開示した場合の数値に拠っております。

4.平成15年3月期の業績予想(平成14年4月1日~平成15年3月31日)

(1)連結業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通期	4,315	200	190

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 20円 36銭

(2)個別業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通期	4,135	275	255

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 27円 32銭

- (注) 1.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。  
2.上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上